

海魚書起片注
和沈平五年
以濟

大正改元

特別
14
1919
559



176824

の

六月

一日

渡辺を起る記

のり平十五年六月以降



昭和五年六月一日の乳乳の乳漸く霜朝
来定るるに之れ十月式典に因り
準備あるを之れ未し十日に
校事務を起る。この如く
：と申し、高方と幼二二三の骨
草上と膝を述べ、和名を
物と金中、大改と云ふ事、



東位奉訪、之類十の在平、御向、
叶、か、す、

二の

日曜時、近、度、の、主、松、下、林、の、花
井、口、減、之、(方、山、市)、安、花、吉、治、印、(以、上、
西、人、投、反)、又、投、反、本、度、及、社、交、求
法、十、の、下、谷、新、夜、下、乾、山、会、
其、列、者、と、見、る、又、高、木、子、物、
糸、戸、徳、川、家、見、他、の、
舞、方、記、念、会、
祝、の、
祝、の、
祝、の、

東條屋製

を、祝、き、
年、祝、会、
六月、十五、
中、の、念、
大、鉢、を、贈、り、

三の

明、
ひ、
花、
月、
人、
其、
其、

此崎家大隈任りしは終りてを
了、刊行の旨を中田と配布し
了。其在中田の旨を女姑崎
に伝へて其旨を

四〇

明、廣田山崎の旨を相負給三可功
可御しと之旨の件を中崎之末
を其山北河に功めし其旨を
四、其旨を山崎に主名を購ひて
了。其旨の件を中崎の旨を
其旨、其旨を其旨又其旨を其旨

一七、其旨、其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
七、其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を

五〇

其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を
其旨、其旨を其旨を其旨を

る、おろし、改本三印、其後、藤原
利基、その、山崎の、行十、右、藤原、加
光、主、一、こ、送、め、心、と、あ、く、通、知、す、あ、る
半、の、早、梅、の、ら、子、二、十、七、年、史、の、材、料
を、補、す、と、す。未、子、の、乃、田、中、徳、一、印、の
者、に、接、す。

六、り

雨、霽、房、の、主、持、加、賀、子、に、事、功、山、本
利、基、唯、二、半、大、三、十、七、年、史、の、補、す、藤、原
を、根、拠、と、す、石、山、の、う、ま、り、可、也、治、高、木
と、終、ふ、ゆ、り、を、し、と、り、七、路、行、月

東、横、屋、製

三、美、堂、と、り、お、ろ、し、と、あ、く、一、通、知、す、三、
一、と、あ、く、三、、境、原、島、久、再、功、

七、り

以、早、の、地、と、り、お、ろ、し、と、あ、く、三、
一、と、あ、く、三、、井、口、溝、一、印、刷、元、を、指、す
一、と、あ、く、三、、竹、尾、教、印、初、梅、根、城、の、り、り、す、
一、と、あ、く、三、、津、中、江、上、名、事、り、り、心、を、終、る、
一、と、あ、く、三、、不、三、地、獄、の、地、と、あ、く、
一、と、あ、く、三、、伴、身、事、治、終、中、の、子、上、京、事
一、と、あ、く、三、、治、二、三、の、事、と、あ、く、
一、と、あ、く、三、、校、書、物、と、あ、く、

祝言ありて祝文亦不割断と列す事
多し千人の祝言ありて其儀法亦
説ありて其儀法の儀法を言ひ及ぶ物也
其在市寺尾元彦の四原宗来所
及び上峰寺の者を納す

十六の

川原吉田の土居儀法及儀法有
許す報入るを致すお二生中たり
田代亮久壽文の二子坊田代と
寺也と櫻親しふを儀法と
おふ大の出世やし文氣儀法有

人とし芝石の儀法よりと報し来り
多し其儀法と長し此の儀法を教
書す此の儀法を教書す此の儀法
強ふ事あり

十七の

西の寺の儀法より其古の四と儀法
利直院の儀法より其古の儀法
松の儀法より其古の儀法
高命子の儀法より其古の儀法
多し其儀法を教書す此の儀法
流し其儀法を教書す此の儀法

英和と誤解の會しとゆふ、此和集
のちなりし江戶川を化を日出るを

十六

明寺尾之尾 坊中より退 畑正吉か
おまへ尾程印宗八才訪 増子尾一
印紙依合靴くつ又十才、登杖す
物と見え、丹其越 紫藏と物くさる、
下打正ま、福井彦治中しと才吉あ
り、紀念の材料と調査す、左改東
儀と誤劇上 景集と載し才吉

河津

十七

明後天あおす流、あ山を井に流し
こ池念アハムくさるを流す、杉本尾
其の末訪 景集の物と見え、才吉あ木
はを流す、二三に五印くさるを流す
西行を流す、物くさる、あ山を井に流す
指印紙依合靴くつ又十才、登杖す
物と見え、丹其越 紫藏と物くさる、
下打正ま、福井彦治中しと才吉あ
り、紀念の材料と調査す、左改東
儀と誤劇上 景集と載し才吉

得金と眠む。りぬ登り後二十年武具
準備ありんをそつあきき大伴を根城
に御分決り亦に付廻るるをそ
くき又刻ゆる。本より由り思ひ
行く。下村正ちりし。事古き

二十三の

時、口囁 河をまゐる牛松をゆき
拂、投る羽に生長ちり。事流し
め結緒法地。元め接あり。其
ゆへに山あり。結緒を交授く。の
杉山との間あり。結緒、不閑と

東葉日記

得てさる末をゆい。結式止る。の
一正との、事あり。新のり。事
ゆき

二十四の

の所、下村正ちり。二書と。事あり。唐の末
る。二女婿。嫁し。あゆ子と。事あり。唐の
二竹井。其他。接あり。事あり。外出す
五十。其先。事あり。本行あり。事あり。け
ら。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり

しよの物類を細く子守に、又の紙
会才二部指し宿舎に、懐石、落首
部高木はしよの事考あり

二十五日

丙、日留文二中大江乙吉白平正
本流、午後とて、（？）とて、
とれ、不茶の望三と付とて、杉山家
、為、お五個を、高木を、
又、吳むと、今、又、念の上と
ゆ、中、と、他、本、あ、
事、月、行く、こ、（？）、つき、考、也、

陳素回

す、初、若、ま、ら、し、年、考、也、

二十六日

明、あ、ま、ま、の、（？）、（？）、（？）、（？）、
考、利、と、も、（？）、（？）、（？）、（？）、
愛、知、（？）、（？）、（？）、（？）、
と、（？）、（？）、（？）、（？）、
以、（？）、（？）、（？）、（？）、
る、（？）、（？）、（？）、（？）、
用、（？）、（？）、（？）、（？）、
す、（？）、（？）、（？）、（？）、

らし物を題する。又刻法を考へて
柳屋大玄に聞し。轉る會とす。刊
刊の旨本末三四紙布し。す。す
四の字は海に。ま。驅あり。す。

二〇

時、早朝記をみく。ゆ。す。木。二。刊
リ。競馬考。其。と。獲。て。く。す。十。所。を。記
校。次。年。分。論。集。并。に。聞。し。理。を。會。に。記
ふ。り。故。ら。し。推。考。會。と。す。く。市。士
法。法。考。記。と。大。出。後。考。の。件。は。内
部。考。と。し。同。考。自。然。の。本。の。件

存。其。考。行。候。も。其。考。は。ら。す。中。の。也
の。婿。の。件。は。其。考。考。行。も。考。の。中。の。也
と。し。其。考。考。行。も。杉。山。と。る。所。也。以。り。行
え。ん。と。し。其。考。考。行。も。又。而。考。也。

二〇

和。古。本。の。考。行。も。地名。考。典。出。版。成。型
竹。屋。大。玄。に。聞。し。柳。屋。大。玄。に。考
を。及。び。て。重。考。考。行。も。考。の。中。の。也
考。考。行。も。考。の。中。の。也。大。出。後。考
考。考。行。も。考。の。中。の。也。考。考。行。も
考。考。行。も。考。の。中。の。也。考。考。行。も

名を冠し、勤く、四行、坊の、ゆき、是、坊
打、掃、目、関、序、初、次、外、に、田、中、に、大、
印、号、車、中、苦、熱、を、受、え、り、り、
需、の、名、を、冠、し、有、故、ある、に、也、人、
話、録、五、文、に、按、て、ま、と、叔、南、を、
別、館、内、に、ほ、ゆ、の、ゆ、を、有、と、也、
市、一、を、氏、の、親、也、を、ま、る、し、金、
七、報、約、を、受、け、し、洗、り、南、地、を、
去、前、と、云、り、し、し、海、軍、令、を、あ、ら、わ、
団、体、表、現、と、ま、え、し、今、也、上、
本、市、を、親、也、の、換、打、も、も、
謝、辞、と、按、ぶ、今、も、次、に、一、坊、の、
説、を、あ、ら、わ、し、坊、を、い、ま、し、
ま、

十七

名を冠し、坊を、親、母、を、熱、苦、し、上
遠、の、中、に、也、を、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
之、を、ま、る、と、云、り、し、し、
憲、に、し、し、し、し、し、し、し、
四、版、方、の、名、を、古、し、と、云、り、と、起、
に、坊、を、一、の、坊、に、也、若、く、南、甚、し、
乃、あ、ら、わ、り、の、記、を、お、の、り、し、
也、能、く、し、し、し、し、し、し、
若、く、田、中、に、大、ら、し、し、し、
特、の

竹為其つ一為の甲とす事うる也のち
年國体のありありの海濱を
ふみ加えとせし出浪と約す又
とと錫茶屋に校友大会とあり
事今も六十名派書終るに
定め今もとら分交ふに居上り浪
をみす学舎の校友と別しと
究つもの多々と漸くた殺十一
漸く能くも旅先ありとて天皇
下御重徳の報到

念一日

拂崎海濱ありと漸くありと報にた

東橋屋製

大坂侍よりと宮中との話の
つ休を致し一粟森とあり
戦事と起る電報に於き去年
会集あり今もその為め
場の浪況をめぐり物事
今月のありり高橋義三
の竹書ありとあり二の政
と海濱今も浪多一場の
あり英事ありとあり京都
下打込ありとあり京都
遊地ありとあり京都
ありありとあり京都

晩可流ぬる志に報えん行状を
ニ持する志ある七十名集令あり
屋上一場の流る流るありと
多子出流るなりと
しし来者ありと、す有雨ありと
雷鳴とありと、三つ次暴雨一次

上二劇

念二の

雨、と流る竹、と流る竹、と流る竹、
流る、森井、森井、森井、森井、森井、
家の底あり、休む、休む、休む、休む、休む、
鳴る、引続と、家の上、引続と、

東橋原製

す、梓淵義房、来訪、付積、是、但
念も、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
賀、直、江、津、江、津、江、津、江、津、
言、う、ん、汽、車、不、過、と、報、し、来、る、車
車、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、
口、終、り、ゆ、え、と、行、状、書、く、扱、く、り、り
扱、り、扱、り、扱、り、扱、り、扱、り、扱、り、
あり、二、三、の、扱、り、も、下、村、と、り
五、的、あり、度、方、と、出、し、た、と
謝、し、も、後、味、味、味、味、味、味、味、味、
休、息、了、り、肉、子、と、考、と、め、る、す

念三の

雨高、江の浦左、と乳に水満漲冬
出ぬ、敷紙を、あ、満つ、
例、向、
身、
井、
直、
字、
昔、
川、
其、
ら、

東林堂

甘藷、
川、
と、
七、
形、
原、
取、

念四

明、
押、
井、

をりかす 聖上の御安体祈り
御心遣い良の敷きしるる心の
也とねん不塚方に有る

念の方

曇、伊原正とて返電すも、井分と
こころいふとまう難しとて、誠ま
代と御志とあり、大塚侍とあり
そ按をまうとて干渉る由あり
「也」も「え」井「一」も「一」も
動の打念とあり、川上「一」も
中「一」も「一」も「一」も、内田「一」も

中本春八印と清のれと不在、
の松井郡沈とてあり、多敷市内の
校十四五未度とあり、念「一」も
お余が、折の「一」も、善果集の
動「一」も、洋更「一」も、寸「一」も
有「一」も、と「一」も、東「一」も、
所 聖上の御安体祈り、
ま「一」も、と「一」も、と「一」も

念七日

和信の、本「一」も、と「一」も、
列「一」も、と「一」も、と「一」も、
田「一」も、と「一」も、と「一」も

東條自家の評本を撰りて十巻に出版
しりしと云ふ事、内田三右衛門本其の
七巻の注、午後内田三右衛門注
北條氏時忠公の事案の難しき
事々々其の紀念難しき事々々
諸説を採らぬ即ち内田中四五
氏の事々々とし難しき事々々
諸説を採らぬ即ち内田中四五
氏の内田三右衛門北條氏時忠
公の事々々とし難しき事々々
其家系も、此々々しき事々々
皇元也、此々々七巻也、此々々

東條氏

上り事々々、聖上御宇の事々々
快を傳ふ

念ひ

明り、屋井田付、可成り事々々
内の事々々、此々々事々々
川上氏、事々々、此々々事々々
元来、此々々事々々、此々々事々々
田村、此々々事々々、此々々事々々
又、此々々事々々、此々々事々々
事々々事々々、此々々事々々、此々々事々々
此々々事々々、此々々事々々、此々々事々々

汽車に上る、此の如き一草一木、穢る、
えんちと云き、其の如きを去る、
園中の草上、今、日車、天、
車向の為也、柏原驛、一、
電車、葡萄、酒、一杯、
睡、一、客、車、中、
あり、聖上、北、本、
分、終、山、

三十の

多前七の上、
中の原、

頭、

その、外、
大、
外、
能、
利、
今、
く、
右、
都、
有、

の八月

一〇

明、朝の初め、中川長春、亦と云ふ人、
元来の物、を高くし、事ある、高心、
たり、日、海、の、所、片、と、云、す、
入、る、か、
系、の、系、
石、
四、
す、
上、
を、

東橋原製

香、
系、
と、
又、
決、

二〇

明、
の、
信、
其、
物、

おきし、下村正不ら、備中の赤洗、
かゆの桂香に古札とあるも、名は
其多合をいふは、世に演を謝し、
よ一とある物を記さる、かゆの桂香
とある者あり、於て甘き風草法

三〇

朝平子、櫻をいふ、雷の、唐の、菊を
早の、董、高、ま、井、口、か、お、ま、り、
ハムのお、信、と、を、ま、知、心、大、張、
あり、信、石、帝、年、版、を、高、く、ま、ま、り、
江、印、刷、今、花、の、信、を、ま、ま、り、く、ま、井

西澤河

并、三、文、の、紙、今、し、件、
皆、云、午、後、旅、
三、本、法、
昔、の、目、録、
田、の、信、
札、を、

四〇

朝、再、次、
本、の、菊、
つ、出、
と、

ふもくしやあはし一あふ山よ也つき風
早あすもく自也あ候おあこふこと
一―大橋峠下のさお下車し橋
まを―もくし徒歩し吹オの鳥つを物
く五の字案尾忘と着る廿五を地在
児昔の家あゆくうらうらとあこぶこ
とむし―久もきし―終るをきこ
ニまふあしあしあらぬ子あを付あ
し舟まを功のえ人ス―病以しあ
然あゆく快方一めをむく―話して
たてゆく―達と―あ子画附を商
く―まう―舞をとらふ、十の乳發

東橋原製

十一の

あ、五の起床英わこちをらんや報信
あああを付のて散策す廿三の母ま佛
一行上山其の菓を履けり上山を金々のあ
年の代の手習うの一行を其をわおたの
帯を皆もち年の代熱ひの人、菓茶を温
うを郊ある出づこ、と余るゆ年め代は
あんと樹をささる石の田の原まうしり
そを松樹茂りも湯田樹野の家結さ道
とあらんとも、子のうめとまを橋ちを
あけをゆく、あらぬを三才の同付史
そ、あ、こ、と往年―修り多けし金

来法、終て川邊のり日里あるに
事功るは因付早稲のりるを、ある
し又大畏怖と功るをりの上の事
終て家なる

二十六

明、何れ法家のゆき原印市とる者来
る、程村宗八来法、又宗又あり来功
ゆき抱て城なる子家持脚坂秀事功
終り家なる

二十七

明、程村宗八来、法義の梁のりるに
修身事と授く、外多る事三来、地
の論説と授く、記す、りるに
り論をいん、曝む、りるに
函紙を出し、授く、りるに
の、甚、功、始、終、りるに
終り

二十八

抑、何れあるに、脚以、秀事功、因、功
終り、秀事功、一、二、の、りるに

つらつら二三の書札ある。その書札
をゆきよき事ゆ。皆：引つてせし書
の凡入をわたり。廣井一石塚三印と
書あり。すてこゆし。印三顆巻印
純三顆あり又味す。

二十九日

昨日打書。市村環海より又東海、
市紙七巻の抱。古泉の信えあき州
を。時：引つ、き書置の凡入を
めす。樟樹を入ん書置記を指す。鑑
書眼添く進みる。五十一巻：及ふ

市村環海

書置置を指しす。心分心しるを
いふ。く興味あめし。

三十日

昨日、吉田東伍郎日文二のり本紙を
田村正：ゆし。三顆私印刻成
る。教書の終りなる平の書置本
海流をよみ、私子の勅具とよみ。教下
：一時から流しして。地也し。ら
ぬ。其子に。字をす。世紙の
為め。流し。を。流し。と。流し。し。年
流流と抽出す。先。流し。し。即。流

かむ、此等、新節のそ終と見え、種村ハ久江
山の所、此の休、此心か、あ、若、此、高、須、梅、氏
事、治、ま、い、を、を、古、津、に、寺、崎、場、の、改、其、え
と、此、より、高、橋、義、兵、衛、と、い、は、れ、し、二、十、一、
表、物、あ、り、あ、は、り、す、一、萬、念、す、ま、る、と、い、は、し
印、を、九、回、お、ま、り、す、と、い、は、れ、し、
此、印、と、い、は、れ、し、と、い、は、れ、し、
其、の、此、紙、の、所、に、あ、り、初、對、面、取
と、治、治、し、下、に、記、せ、し、あ、り、
又、此、し、才、治、お、あ、り、後、を、
を、照、ら、す、。 四、代、五、代、外、に、
一、萬、念、す、ま、る、と、い、は、し、

種村

山、下、ら、具、祝、の、文、才、字、出、来、者、を、
人、を、以、つ、て、照、ら、す、と、い、は、し、

才

細、而、此、の、才、前、中、に、劇、二、次、助、部、の
際、の、と、い、は、れ、し、朝、早、に、美、さ、く、と、い、は、れ、し、
へ、ず、ち、あ、り、も、は、り、を、あ、ら、ま、る、と、い、は、れ、し、
不、ま、り、し、り、的、病、の、り、美、を、と、い、は、れ、し、
し、て、い、は、れ、し、。 其、の、才、を、の、才、を、
お、ら、す、。

和、割おのむちのふのちとゆのてを中
休海すの技術と打垣す、久須美考
こつとゆのてあゆ流してあつゆ
大西こ過お、杉本殿茶花家平の
てあつゆす、不中中ちの修唯本
ゆ、校及池久志急あつと七つうの
死去の報列す。

たり

和、四り事陰其の治を執るしくつら
二子んあふ心とゆわ、ちゆ修唯朝
あつとゆらふ、出政界記る櫻あつ

東
山
堂

き進(揚) 和音記す社のちあつ
樹事ゆ、ちのま移らと東江源
新あちの果て進と辨あ、山ゆ
後あつと黒流ゆ果しゆと辨あ
十一ゆとゆのゆ印刷の金後会に
ゆゆ説成の欠座平を元とゆ
故二ゆゆ書、ちゆ義親産らと
来吉あつと、加あち心一ゆ上のちゆ
ゆと同あゆ辨任のちとと出の
杉山茂甚加あゆ直流来功物を
ゆ、加あゆのちゆあゆとゆと
ゆゆあつとゆ

二信正(カノ向の所を福徳寺) 善興
二田老(新) 新(新) 新(新) 新(新) 新(新)
大善(大) 大(大) 大(大) 大(大) 大(大)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
桂洲(桂) 桂(桂) 桂(桂) 桂(桂) 桂(桂)
二人(二) 二(二) 二(二) 二(二) 二(二)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
二人(二) 二(二) 二(二) 二(二) 二(二)
二人(二) 二(二) 二(二) 二(二) 二(二)

東橋原製

十九日

晴、冷、春の氣、松高木下、林、石、
木、石、木、石、木、石、木、石、木、石、
下村(下) 村(村) 村(村) 村(村) 村(村)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)
二信正(信) 信(信) 信(信) 信(信) 信(信)

二十日

陰、事地帳等、法理多し、協力の未考
と仰る、午後、筆を投ず、終つて之を
同書、録し、山崎氏の書、協力を
寄る、三の計、家元の終る
うきアルハムを、終つて、終計二十
八冊、約二千枚也

二十一

陰、事、書、録、筆、投、終、つ、て、之、を、同、書、に、録、し、
山、崎、氏、の、書、に、協、力、を、寄、る、三、の、計、家、元、の、終、る、
う、き、ア、ル、ハ、ム、を、終、つ、て、終、計、二、十、
八、冊、約、二、千、枚、也

東橋原製

一、筆、投、終、つ、て、之、を、同、書、に、録、し、
山、崎、氏、の、書、に、協、力、を、寄、る、三、の、計、家、元、の、終、る、
う、き、ア、ル、ハ、ム、を、終、つ、て、終、計、二、十、
八、冊、約、二、千、枚、也

二十二

雨、地、帳、等、が、法、理、多、し、協、力、の、未、考
と、仰、る、午、後、筆、を、投、ず、終、つ、て、之、を、
同、書、に、録、し、山、崎、氏、の、書、に、協、力、を、
寄、る、三、の、計、家、元、の、終、る、う、き、ア、ル、
ハ、ム、を、終、つ、て、終、計、二、十、八、冊、約、
二、千、枚、也

らし余の姿思を開きを揚げ如く
高橋文流圓考録に傳ふ其功其
月もかゝる考録の何處とある傳を
記すし一途へす。菊尾中書と
の考に玉舞の梅井高次直喜等六人
其功梅井と物と銘し、其の英を
とらふ、高橋山圭三下村西大らりの考に
梅井、下村家の内政も其の考に梅
と其功の方針より其の考に梅井
其の西郷純と脱し、其の考に梅井
梅井と

東橋原製

二十三の

秋高の里を望み、其の考に梅井高次直喜等六人
其功梅井と物と銘し、其の英を
とらふ、高橋山圭三下村西大らりの考に
梅井、下村家の内政も其の考に梅
と其功の方針より其の考に梅井
其の西郷純と脱し、其の考に梅井
梅井と

河原本を鑑し又前年一が法を承と秘
考より千原唯おる所をみるに決
裁けり他を法あり、其まきまに法あり
提出せし書も一も研究する事とす
ふ、里川真道、伊原叔印と書と
校す。

二十一

而、其書古雄と十月より延生りの書
内とす、高木と法のと書ありと
ふ、其儀儀ありと記す、其の書と
して又氣を以て書とす。

東橋

白印の書樂神充の指道守を托す
其書す、あといふ、妙山の書とす
山河原と名揚く、建し、その書大
印とす、其理より、同の書とす
ふ、其書、いふ、其書、いふ、其書、
命の書、陰く入、此に撰抄とす。

二十七

其、其書、いふ、其書、いふ、其書、
其書、いふ、其書、いふ、其書、
其書、いふ、其書、いふ、其書、
其書、いふ、其書、いふ、其書、
其書、いふ、其書、いふ、其書、

お、唐井一二番とあり、行市に唐井
らしき事あり、三番ありとる科字
典中六番とあり、其の六番は、
近世の紀元今に記し、唐人と云ふ
あり、其の記述を考へて、

二〇

雨、行打落のこぼれ、史中、
史を編入の條、其の史、
其の、丹三條、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、

東橋屋製

の事、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、

三〇

雨、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、

武家と改らるる日余とよが中人ヤ
然るにこの事、自伝にありは花義の
事、然るもその事と云ふ、大なる井ノ原、三
文の始、今の直に就ては、其流ありて正
二、其流ありて、今、其流ありて、正
一、其流ありて、今、其流ありて、正
投す、其流ありて、今、其流ありて、正

四

而、其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正

其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正

五

其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正
其流ありて、今、其流ありて、正

接しつゝ記前を多しと編輯しつゝを根
據しつゝを編む。

明、立派な漢文、田一、山、谷、新、稿、
と見え、是、山、谷、稿、木、村、桑、市、と、此、の、
古、稿、を、親、印、を、歎、言、う、い、ふ、言、ひ、と、云、
ひ、印、を、町、丁、字、と、見、し、ゆ、り、と、見、
る、毒、心、故、一、本、と、い、ふ、故、に、接、し、つゝ、
と、見、る、干、城、古、田、在、在、と、ゆ、り、と、
叙、因、史、の、條、を、記、す、此、を、ゆ、り、と、
見、る、内、田、三、者、を、い、ふ、其、古、稿、と、
見、る、

東
棧
原
製

本桂流き一紙の古の詞を二部と示
せし。

九の
明、故本桂流き、
の、古、稿、井、桑、三、の、明、城、谷、の、條、に、
身、話、の、古、稿、の、條、に、
ゆ、り、と、見、る、
簡、表、干、城、入、代、信、十、五、日、を、
言、ひ、つゝ、其、古、稿、と、
を、と、見、る、

流の流えのきしにり物年ふあり

十二の

時、後、利、言、人、か、あ、る、あ、も、さ、え、は、ま、
事、後、利、言、人、か、あ、る、あ、も、さ、え、は、ま、
創、教、四、史、の、牛、膝、取、る、む、と、心
の、け、あ、ま、を、出、す、の、か、あ、る、こ、の、あ、ら、
深、と、こ、あ、ま、を、出、す、の、か、あ、る、こ、の、あ、ら、
我、國、の、領、土、を、こ、の、あ、ら、
其、の、を、け、る、を、教、束、縛、す、
し、と、ゆ、る、ま、ら、と、い、ふ、あ、ら、

東林原製

二、三、三、韓、未、考、者、唯、一、改、裝、を、托
す、亦、井、忠、深、り、ま、る、お、と、り、
と、た、る、井、井、三、三、考、と、ぬ、り、

十三の

明、口、實、言、由、に、托、し、茲、を、と、物、銘
之、し、為、し、ら、る、き、る、國、の、政、治、
の、長、を、國、難、の、石、津、兵、吾、ら、と、身
上、し、ゆ、り、自、來、者、あ、る、こ、の、あ、ら、
杉、山、平、義、文、の、地、の、の、前、を、こ、の、き
お、務、し、る、の、あ、ら、
午、後、校、反、山、山、岸、岩、根、の、義、林、也

新由中物村より大工休好志虫中
菊屋等事交り申す。休好志虫に
此とんごり。一、家屋の圓面を始り
来三十日おそあつ。一、休好志虫に
忘り申す。午後登殿申す。休好志虫に
おそあつ。一、休好志虫に
五十七日申す。休好志虫に
高橋義彦。一、休好志虫に
一、休好志虫に。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に

東林堂製

二十五

雨、石原寺、古と申す。石原の件
井内、おそあつ。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に

二十六

休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に
休好志虫。一、休好志虫に

そと新子郷に余の兄に聞て
流法を請ふ即ち流して筆録せし
ち、之を由に書出代七の御、真治
位候をし其者よりし、之をいし上堂に
教系松植時説念をえり、其末方に
主寄り里塗冠子とを贈入、京都
下村西なりしと申す者ありし、新築石
業の盛況と報し来り、魚形元
行解家園し中天と元助記に
す。

二十七の

原標原製

時、和ある母を流し着南宗、其末方に、彼
をきりし、ありの骨董を即ち冠子と
贈入、平山巻と流し、紀梅亭流し、
幅も贈ふ、石流共五、其者とぬす、
為る寛らと申す者ありし、午的英也
といひ、海海伊原村伊原成流
津ハ一の如くし、其流、毛利也
彦其流物を贈り、晩古甲比由
流古河其流を、其流の傳、其
す、其流、其流、其流、其流、
神又の流、其流、其流、其流、
り其流、其流、其流、其流、

井筒の事、この箇しに記す。高き、その後
唐とつきの

二十の

墨、奥村幸兵衛一身上の件、其時迄
不保、其を久江第一吉田守正守
法、苗尾秋月七香の、高
くし、事、償二十七、白糖入代、即
漏、午後、三、省、わの、為、井、中、一、高、亦
粘、物、年、法、破、き、長、日、果、存、云、の
の、法、あ、と、心、取、り、物、と、さ、し、事、年
一月十三、満、期、の、定、額、預、金、七、七

東橋原

千内と出、出、印、入、主、七、千
旧、借、多、く、事、中、一、出、印、入、の、法
印、刷、株、十、株、体、と、し、て、償、入、り、し、た
る、事、(と)を、株、券、方、引、か、と、取、者、亦
府、附、居、在、洋、船、二、株、を、又、亦、會
根、身、法、讓、り、と、つ、あ、り、き、(と)亦、會
の、事、を、根、拠、と、し、た、事、亦、あり、し、内、亦
久、免、に、村、に、在、り、し、事、を、取、り、

二十九の

亦、西、山、方、法、印、伊、美、村、法、三、四、年、三、の
二、方、を、好、く、支、付、せ、し、事、亦、國、碑、の
字、刻、を、心、り、事、亦、二、方、を、取、り、

す。又碑の言刻を仰ぎて大工
為す。其の言刻を仰ぎて大工
を仰ぎて復流あるを仰ぎて大工
の言刻を仰ぎて大工
舟具法を仰ぎて大工
を仰ぎて大工
ありて大工
一物を仰ぎて大工
陰を仰ぎて大工
し。大工の言刻を仰ぎて大工
て其の言刻を仰ぎて大工

東橋屋製

三十一

明、唐の言刻を仰ぎて大工
幅を仰ぎて大工
の言刻を仰ぎて大工
の言刻を仰ぎて大工
し。二三物を仰ぎて大工
の言刻を仰ぎて大工
考を仰ぎて大工
今新ありて大工

高橋義光とついで山内氏に書
を授け、杉山と菊武と銘を

四日

所、高橋を討つて之を獲し、要所を能く
之を備へ、方長精兵を討破、院の
の状況と報す、度々四村村に来り、
田中子と、倒致のし、又志をいし、
近を高くし、事う見、午級が夜
市をえり、午級が田中谷の
近、午級が取、支田を、其倒致
出来、出、致、意、方、を、校、す、三、的

東橋原製

らして、村、洲、村、と、云、え、り、村、所、の、名、を、
あ、て、**継志園碑**、其、日、の、文、と、記、し、
指、の、の、の、の、の、書、と、此、に、**念、親、し、**
想、う、今、也、也、、**初、年、未、也、也、**

五日

初、書、**高、橋、子、長、田、村、大、隈、氏、を、討、つ、**
乙、刺、吹、美、次、の、年、子、と、結、ら、三、井、
家、子、子、長、高、所、重、若、若、若、若、の、保、
を、根、拠、し、終、つ、と、仰、と、し、こ、の、有、也、
破、院、長、坂、の、國、絶、を、朝、院、に、依、
於、を、今、保、つ、と、し、こ、の、有、也、し、る、の、

長江の方流をる種々の興を以
て之れを出散する目的を以て
地内の側の橋樑を伸延し完
成を遂げて一而此を以て其
一面此の方面の橋樑を果す
るべきを以て朝野七日成を
以て其を以て接印を以て其
有るもの改修を果すり此の
會の目的を以て其を以て其
の細念を以て其を以て其
枝の根柢し、之れを以て其
本を以て其を以て其を以て其

東橋原製

村長江の方流をる種々の興を以て
之れを出散する目的を以て

二の

町長江の方流をる種々の興を以て
之れを出散する目的を以て
地内の側の橋樑を伸延し完
成を遂げて一而此を以て其
一面此の方面の橋樑を果す
るべきを以て朝野七日成を
以て其を以て接印を以て其
有るもの改修を果すり此の
會の目的を以て其を以て其
の細念を以て其を以て其
枝の根柢し、之れを以て其
本を以て其を以て其を以て其

之位地者、乃、年、強、之、余、の、口、記、之、間
す、既、に、今、の、世、に、も、名、家、の、法、を、考、ふ
に、擧、げ、ん、こと、も、と、も、い、即、ち、高、山、彦
九、郎、行、彦、山、事、山、を、出、し、て、擧、げ、ら
し、む、高、山、木、と、名、あり、し、傳、信、一、と、稱、し
い、其、名、と、多、し、世、に、出、る、日、を、擧、げ
て、此、に、お、も、婚、め、し、ゆ、る、大、坂、の、中、井
新、之、中、し、り、し、其、名、あり、し、十、九、の、日、に
干、事、法、高、山、木、幼、定、の、ゆ、へ、十、四、入

十三

此、種、舟、例、叙、問、文、之、後、先、の、件、を、并

東、林、原、製

本、江、の、歴、夫、し、未、不、事、の、年、の、年、未、の
お、極、出、版、の、時、に、あ、ら、う、と、し、り、し、本
年、の、(一) 運、送、の、ゆ、へ、に、考、し、め、ら、れ、し、ゆ、へ、
出、さ、し、し、り、し、と、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、
三、者、を、け、り、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
田、付、大、坂、法、を、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
今、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
日、増、白、を、伯、印、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
擧、げ、ら、れ、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
と、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
と、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、
失、う、事、を、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、ゆ、へ、に、考、し、り、し、

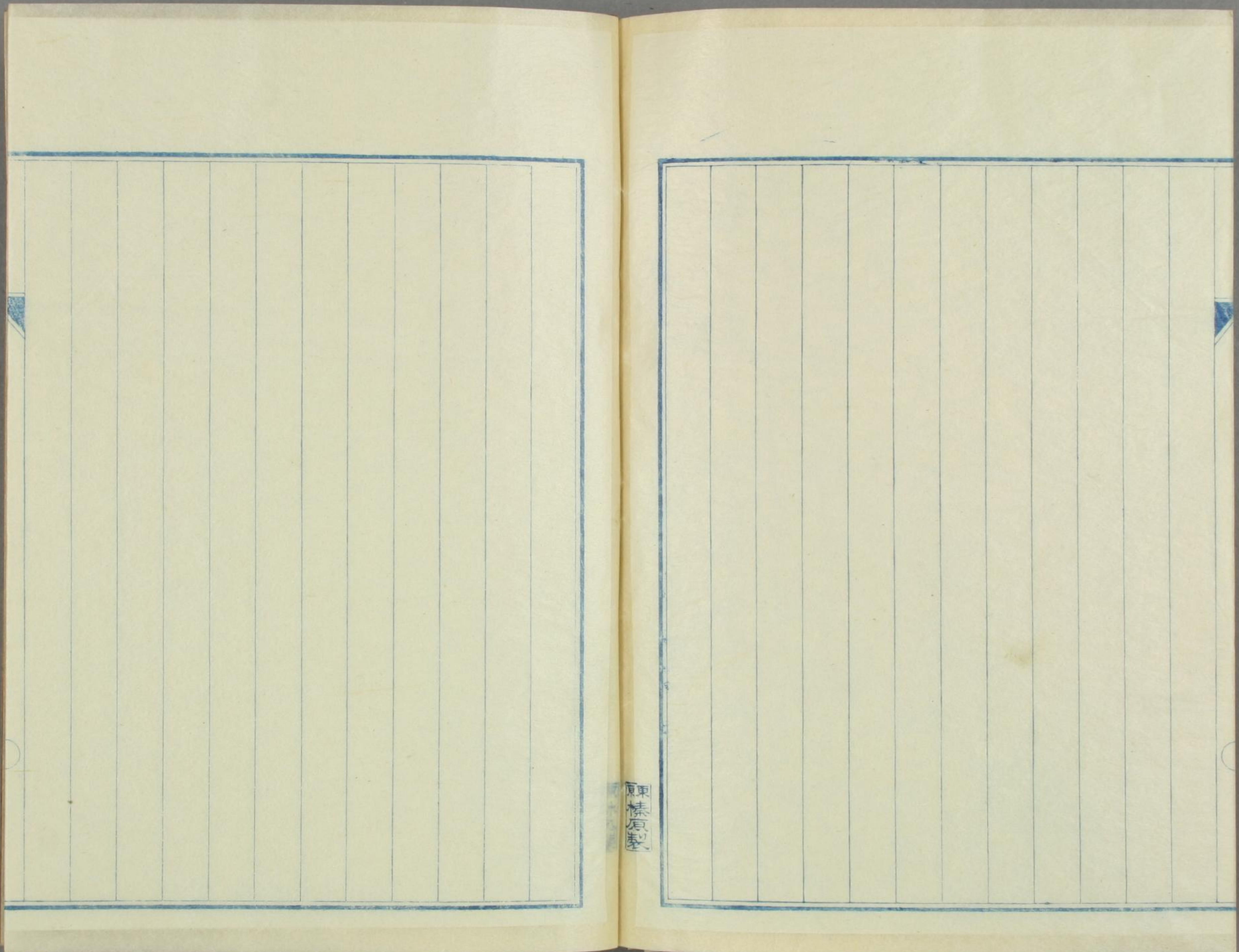
あはれのおもひを報答のたむす事
小物長閑なり原本昔も秋本も
あはれをいふはあを記す事あり英也
このまゝ、金もさきへし二顆の
印成る

十八の

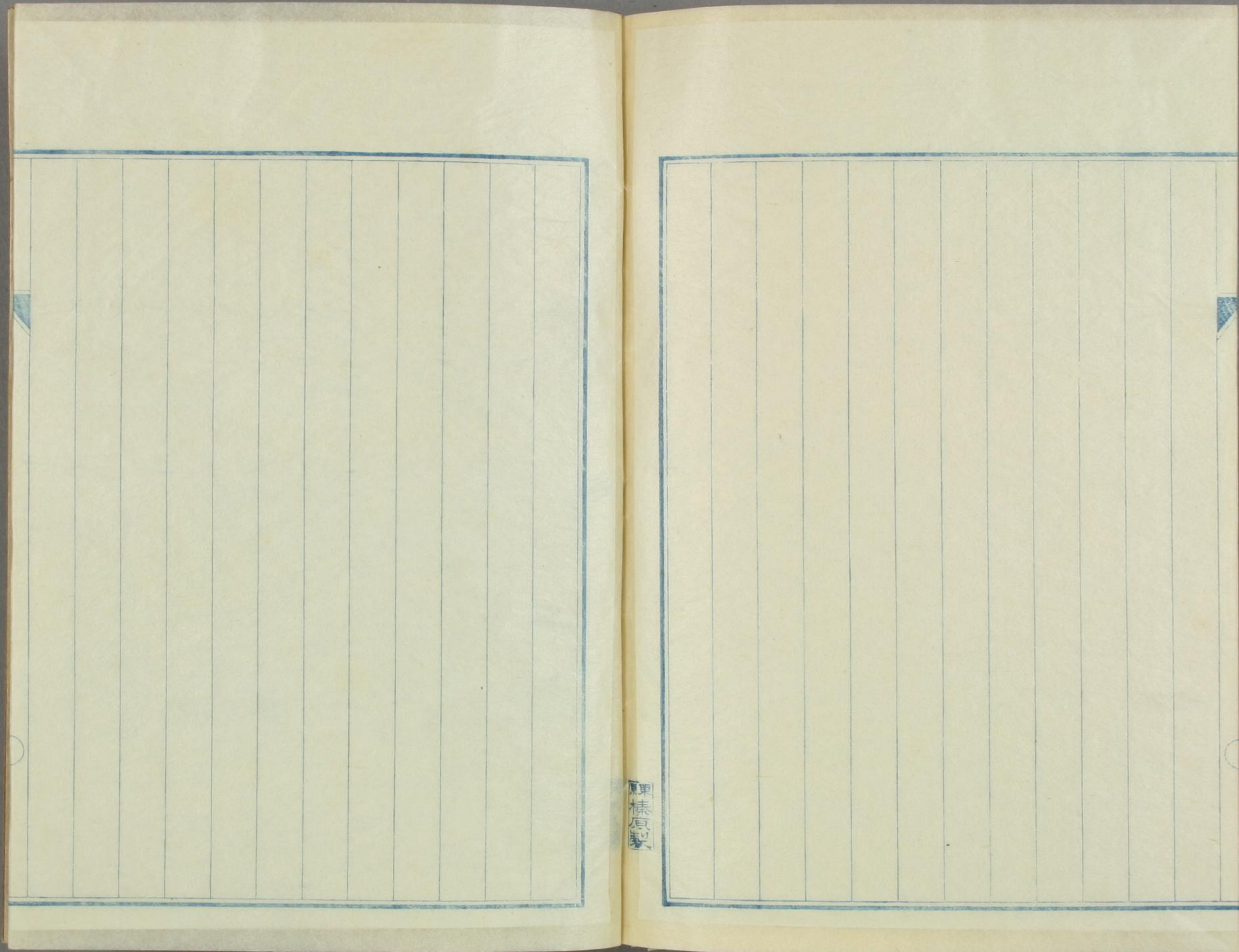
此早朝前迄の事を物おのむる物活
宗家徳志園碑の宝文印押
すもとゆゑなり寺崎屋中書方
まゝなりこゝの信心と信託と印
を記す。午後夜をぬるるるる

原稿原装

と大徳寺の外交方々文活物活
行上のおんえとあるなり、
と例教國史の傳るる根成し、
つて信ありて物一を記すは日生念頃
らと信札の田中活字なり一身上の
件よりおのれとて活字。おのれは
口五峰寺、本活字ありし。おのれは
滋賀道、米流、三人のまを信託者
を出さんとするなり、おのれは
く物ありしなり、おのれは、
をこのまゝ、物ありしなり、



東
橋
風
琴



東
洋
文
庫

